

自発的な発話を目指した小学校英語カリキュラムの作成 Ⅱ

機能－構造編成による指導内容の体系化

はじめに

第1章 小学校英語の構造と理論Ⅱ

第2章 カリキュラム試案Ⅱ

第1節 目的論に関する考察

- (1) 適時性論の限界と国際化論の矛盾…1
- (2) 初等教育の世界標準化論……………2
- (3) 京都市独自の小学校英語……………2
- (4) 小学校英語の目標および内容…………3

第1節 低中高学年別機能案……………9

第2節 第1～6学年別指導計画案…………9

おわりに

第2節 指導内容の構成単位

- (1) さまざまな構成単位……………4
- (2) 場面シラバスの問題点……………5
- (3) タスク中心シラバスの問題点…………6
- (4) 機能・概念シラバスと
文法・構造シラバスとの調和…………8

<研究担当> 中村節男（京都市立永松記念教育センター研究課研修）

<研究指導> 堀 康廣（京都市立永松記念教育センター指導主事）

はじめに

このカリキュラム開発は全2編から成るもので、本教育センター研究報告 396を前編、同 414（本編）を後編とする。前編での論述には次の課題が残された。

- 1) 目的論に関する考察が行われていない。
- 2) 構成単位についての検討が十分でない。
- 3) 時間配当を加えた具体的な指導計画が無い。

本編はこれらを補完し、前編と合わせてひとつのカリキュラム案を提示するものである。本編では上記の課題について、目的論の考察と構成単位の検討を第1章で行い、第2章では指導計画とその基本となる指導内容を提示する。

第1章 小学校英語の構造と理論Ⅱ

第1節 目的論に関する考察

(1) 適時性論の限界と国際化論の矛盾

まず、昨年度の報告書では触れなかった「なぜ小学校で英語を教えるのか」という問題について考えてみたい。すでに各方面から提出されている答は2つに集約されよう。ひとつは「小学生という年齢が英語の習得に有利だから」というもので、もうひとつは「冷戦の終焉によって英語の必要性が高まったため」というものである。中教審答申はこれらを「外国語の発音を身に付ける点において、また中学校以後の外国語教育の効果を高める点などにおいて、メリットがある」また、「手段（相互理解を深めていく手段：筆者注）としての外国語の重要性はますます高まっていくであろう」と表現している。しかしながら、これらの答では小学校英語の目的論として成立し得ないとする。

ひとつめの「小学生という年齢が英語の習得に有利だから」という主張は他の教科にも言えることであって、例えば時間数の削減が予定されている図画工作や音楽も、もともと子供の頃でないとな身に付かないから小学校に導入されたはずである。ところが、習得の適時性を根拠として各教科・領域から要求される学習内容は児童への過重負担となり、今や「教育内容の厳選」という形で調整せねばならないほど膨大な量となっている。このような状況の中で小学校英語は相対化され、「総合学習」の中でどれだけの時数を確保できるか、しのぎを削り合うかのようなものである。つまり、習得の適時性という子供側の論理は、指導内容の優先順位という大人側の論理に置き換えられてしまっ

ている。何よりもの証拠に中教審答申自身が「小学校児童の学習負担の増大の問題、小学校での教育内容の厳選・授業時数の縮減を実施していくこととの関連の問題」を理由にして、「教科として一律に実施する方法は採らない」ことを明言している。習得の適時性から見れば、教科として実施するのが最良であることは言うまでもないのだが。

もうひとつの「冷戦の終焉によって英語の必要性が高まったため」とする主張は、根拠が予測にすぎないため、説得力を持たない。中教審答申の言う「外国語の重要性はますます高まっていくであろう」という予測は、「今後の国際化の進展」という予測を根拠としている。しかし、今の国際状況が将来も続くとは限らないのであって、外国語の重要性も高まるとは予測できない。第15期中教審第1次答申の第2章は「冷戦が終焉し」という言葉で始まるが、過去の中教審答申の中に「冷戦の終焉」を予測したものがあっただろうか。今日の天気は外れたが明日の天気は当たるだろう、と言っているようなものである。

仮に今後も国際化が進展したとして、冷戦の終焉がもたらしたボーダレスな世界とは、経済や社会や文化が国家を越えて交流する世界である。中教審答申もまた「国際化の進展は、人と人との相互理解・相互交流が基本となる」と述べている。人と人が国家を越えて交流し合うような世界になれば、教育もまた国家に依存しないのではないか。中教審答申はそのような未来への橋渡しを務めていることになり、これは国家政策たる答申の性格から考えても大きな矛盾である。

不確実な未来像を根拠とするのではなく、現在すでに外国語の重要性が高まっているとする主張はもっと説得力に欠ける。年間1500万人以上が海外へ旅行し、年間1100万本以上の米国製OS（コンピュータ基本ソフト）が販売されている現状において、外国語の重要性はますます高まりながらも、並行して日本語化が進められているからである。外国語の苦手な日本人旅行者には世界中あらゆる地域への日本語ツアーが用意され、英語OSは半年待てば必ず日本語版を手にすることができる。千万単位の人々が外国語を必要としながら母国語版が作られない状況など19世紀の植民地以外ではあり得ない。つまり、外国語の重要性が高い状況は、需要と供給の関係から母国語版を生み出し、やがて外国語の必要性が少ない状況を作り出す。ハリウッド映画は日本語吹き替え版で封切られ、巨大遊園地ではミッキーやドナルドが日本語で話しかけてくる。今、我が国の小学生は外国語

を必要とせずに暮らしている。

このように、適時性の論理ないし将来予測から、あるいは必要性の論理から、小学校英語の目的論は成立しない。カリキュラム開発の出発点である「なぜ小学校で英語を教えるのか」という問いに対する答は、別の論理に求められねばならない。

(2) 初等教育の世界標準化論

前項の目的論はいずれも日本という国家レベルでの論述であった。これをより大きな枠組で、あるいは、より小さな枠組で考えてみよう。大きな枠組には世界を、小さな枠組には公立小学校の運営者である市町村を想定するのが妥当であろう。

世界レベルでの語学教育について、安藤昭一は「21世紀のなるべく早い時期において、小さくなった地球村のすべての住民が、母(国)語と国際英語(人類の意思疎通のための共通の言語としての英語:筆者注)の両方を自分の言葉として身に付け、なおその他に、好みと必要に応じて民族語(英語を含む)の1つをも学んでいるべきだ」^⑩と述べている。安藤の「地球村すべての住民」という表現からは、国際英語を子供でも知っているようなものとして構想すべきことが理解される。外国語教育は容易ではないが、国際英語は足し算や引き算のように学べるものでなくてはならないだろう。それは決してエリート教育ではあり得ないし、中等・高等教育が担うべきものでもない。

また、母語と国際英語の両方を身に付けた世代の育成は家庭教育が成し得るものではなく、少なくとも第一世代の出現は初等教育段階での意図的な語学教育を抜きには考えられない。このようなことから、安藤の国際英語論は世界中の初等教育に国際英語を導入しようとするものだと言える。さらに、各国の初等教育には最小限「読み、書き、算」が含まれることを考えると、国際英語論からは「国際英語の読み書き、算」を共通部分とした初等教育の世界標準化とも言うべき近未来像が描かれる。初等教育の世界標準化という手段は国際英語という目的と不可分であると言える。

初等教育世界標準化(=国際英語)論と中教審答申の国際化論との違いは、人類共通の言語を目的としているかどうかにある。この違いによって、初等教育世界標準化論は、小学校英語の目的論となり得る。なぜならば、近い将来の世界情勢がどのように変わろうとも、人類が共通の言語を持つことの意義は決して揺るがないからである。中教審答申が冷戦終焉後の新しい状況への「対応」を目的とするのに対して、初等教育世界標準化論は

人類が共通言語を持つという新しい状況そのものを作り出すことを目的としている。ザメンホフら先人の遺志を持ち出すまでもなく、「なぜ小学校で英語を教えるのか」という問いへの答がここに示されていると考える。

臨教審答申はかつて「国際化の具体的内容は時とともに変化するものであり、今日の与件の中で対策は、明日にはすでに時代遅れとなっていよう。」と述べた。冷戦終焉後、韓国をはじめとする多くの国々が初等教育に英語を導入したという事実は、初等教育の世界標準化がすでに始まっていることを意味するのかもしれない。今考えるべきは、人類共通の言語を今日の与件とした、明日への対策かもしれない。

ところが、日本語だけで暮らしていけるという現実、ならびに教科としては実施しないという方針はこの大きな枠組の設定だけでは克服されない。

(3) 京都市独自の小学校英語

小さな枠組としての市町村レベルで小学校英語の目的を考えてみたい。例えば本市、京都市においても日本語だけで暮らしていけるという現実は何ら変わらない。児童は、消しゴムを買うのに文房具店で英語を話す必要もなければ、テレビゲームをするのに英文の攻略本を読む必要もない。世界自由文化都市を宣言した本市と言えども、市民が日々の生活に英語を必要とすることはない。

だがここで、人類共通の言語という目的を掲げるならば、世界自由文化都市の市民が日本語だけで暮らそうとするのは怠慢の謗りを逃れないだろう。誤解のないように言うが、本市は外国人観光客が多いから、小学校でも英語を教えるべきだ、と主張するのではない。宣言の精神と規定する都市像が小学校英語を要請するのである。

宣言は「われわれは、ここにわが京都を世界文化自由都市と宣言する。世界文化自由都市とは、全世界の人々が、人種、宗教、社会体制の相違を越えて、平和のうちに、ここに自由につどい、自由な文化交流を行う都市をいうのである。」と謳う。安藤昭一が「地球村のすべての住民」の共通言語として国際英語を提唱したのと同様に、宣言もまた「全世界の人々が」つどい、交流を行うための共通言語を示唆している。なぜならば、言葉の通じない者どうしが平和のうちにつどい、文化交流を行うことなど考えられないからである。

いったい宣言というものがどれだけの重みを持つものか考えてみたい。宣言は法制のように内部に向かって効力を発揮するものではない。宣言は

外部に向かって自己規定を表明するものである。当然ながら、自己規定はそれを行った者に必要な資質を求める。もしも、宣言と主体者の資質との間に落差があれば、宣言は有名無実とみなされ、主体者は信用失墜の憂き目に会うであろう。宣言後20年を迎えようとする京都市民は、自己の資質を問い直すべき時期にあると言える。

昭和53年という時点で宣言が行われたことを考えれば、宣言が冷戦終焉後の世界情勢に追随しようとするものでないことは明らかである。中教審答申がその性格から近い将来への対応を企図するのはやむを得ないとしても、世界情勢への追随に終始する論理展開は、我が国の教育がすでに後手に回ってしまったかのようなものである。前項で見たように、小学校英語の目的論は、暫定的な対応策としてではなく、はるかな理想を目指すものとして論じられねばならない。宣言が「もとより、理想の宣言はやさしく、その実行はむずかしい」と警鐘するように、世界自由文化都市という困難な理想においてこそ、小学校英語の目的論は成立する。

京都市の例に見られるように、小さな枠組としての市町村は、小学校英語に関して独自の目的論を持ち得る。実際、京都市は平成9年度から「きょうと英語フロンティア・キッズ」事業を開始しており、平成11年度には全市立小学校で英語活動を行う。もちろん、教科として英語を教えているわけではない。小学校が義務教育である以上、京都市もまた、新学習指導要領が示すであろう対象学年と授業時数に依拠せねばならない。

本カリキュラム案を実施するには、少なくとも週1時間（年間35時間）が必要であると想定しているが、実際にはもっと多くの時数が必要かもしれない。これは英語を教科としないという中教審答申の方針に従いながら、最少限の時数で最大限の内容を盛り込もうとしたためである。今後、本カリキュラム案を検証・修正していくには、どうしても週1時間の実践を継続する必要がある。

教育課程審議会の「中間まとめ」によれば、小学校では週2時間以上の「総合学習」が第3学年以上に新設される予定である。この「総合学習」において、外国語は情報、環境、福祉などと同列に位置付けられているが、その具体的な扱いは「学校の創意工夫」に任されている。本市、京都市の例で考えるならば、世界自由文化都市宣言が掲げる都市の理想から見て外国語教育は非常に重要であり、週2時間の「総合学習」のうち少なくとも1時間を英語に充てるべきであろう。しかしながら、そのように設定した場合でさえ、開始学

年は第3学年からとなり、果たして小学校英語の目的を達成することができるのか疑わしい。京都市独自の小学校英語という位置付けで、第1学年から週1時間の英語を設定し、第3学年の「総合学習」へと継続するのが望ましいと考える。

（４）小学校英語の目標および内容

前編で示した小学校英語目標および学年目標は、本編前節で考察した目的論に合致しているので、変更点はない。

小学校英語の内容についても基本的には前編と変わらないが、次のような増補改訂を行った。

1)前編「表現領域の内容」のうち、低・中学年で扱う機能を多くした。

2)前編では「理解領域の内容」と「表現領域の内容」に分けていたものを本編では「低中高学年別機能分類」として統合した。

ひとつめは、低・中学年で扱う機能が少ないという問題点を改善したものである。例えば、「何かを否定する」という機能の場合、前編では高学年で扱うようになっていたのを、本編では低学年で“Nothing./Nobody.”、中学年で“No + 名詞”とした。このように、低・中学年で扱う機能を増やすことによって、より早い時期から自分の意図を明確にした表現ができるようになると思う。

ふたつめは、「理解領域の内容」が機能一覧表としての外に役立たなくなったからである。前編では各学年ごとの内容を提示することができなかったが、本編では6年間の詳細な内容とその配列を明示している。これを見れば教師は「おおざっぱに調整されたインプット」^②を与えることができるので、前編の「理解領域の内容」は見る必要がなくなった。クラッシュのインプット仮説によれば、「きめ細かく調整されたインプット」よりも「おおざっぱに調整されたインプット」^③のほうが効果が高いとされており、前編はこの点から見て改善する必要があった。

また、前編の「表現領域の内容」は機能項目を数字で表記したため、機能と表現との対応がわかりにくいとの指摘があった。本編ではこれを数字ではなく文での表記に改め、機能一覧表の役目しか果たさなくなった「理解領域の内容」と統合して「低中高学年別機能分類」とした。

以上のように、目標・内容ともほぼ前編と同じなので、変更点のない図表は再掲しない。目標の構造に関する論述や学年目標の一覧などは前編を参照されたい。

第2節 指導内容の構成単位

(1) さまざまな構成単位

ふたつめの課題である「何を指導内容の構成単位とするのか」という問題について考えてみたい。この問題はシラバス・デザインとして論じられることが多く、本編でもシラバスという語を用いる。シラバスの定義には指導法を含むとするものもあるが、前編で採用した機能による編成は指導法を含まないため、本編でもシラバスは指導法を含まないとした。小学校英語のシラバス研究を行った松川禮子もシラバスに指導法を含めない立場をとっており、本編は松川の「内容の選択と指導順序を提示したもの」^④という定義を採用する。

前編では機能を単位とする配列を示したというものの、実際の指導案では場面、話題、概念、タスクなど、さまざまな要素が関連性なく取り混ぜられており、あたかも子供のおもちゃ箱の様を呈していた。これは機能編成以外についての検討が不十分であったためで、本編ではさまざまな構成単位について検討したい。

先行研究を調べる中で気付いたのは、さまざまなシラバスが創案されていながら、それらの相互関係が明らかにされていないことであった。例えば、機能・概念シラバスと文法・構造シラバスは相反するものなのか補完し合うものなのか、場面シラバスとタスク中心シラバスは包含関係にあるのか否か、など互いの関連について解明したものは見当たらない。

先行実践には、シラバスに関する混乱が見られた。ある実践は場面シラバスを採用したと言い、またある実践はタスク中心シラバスであると言う、そしていずれもが似たような指導案を書いている。あるいは、中教審答申が文法を教えない方針だからと言って、機能・概念シラバスでも場面シラバスでも文法さえ除外すればそれでよい、とする例も見られた。この例では、文法を除外するよりも、文法・構造シラバスを並行して適用するほうが言語習得理論にかなっているように思われた。

混乱の原因は、さまざまなシラバスが異なった外国語習得理論を背景としていること、そして、それらを俯瞰できる超理論がまだ構築されていないことにあると考える。そう言っても、固定された視点がなければ、シラバスの相互関係を統一的に示すことは不可能である。本カリキュラム案が根拠とするクラッシュの外国語習得理論もすべてが正しいと認められているわけではないが、同理論が提唱する5つの仮説を適用すれば、外国語

習得過程全体が統一的に説明される。本編では、さまざまなシラバスの相互関係を示すために、ひとつの視点として、クラッシュの外国語習得理論による説明を試みる。

その前に、主なシラバスがどのようなものであるか概観しておきたい。それぞれの違いを明確にするには、構成単位を抽象概念として説明するよりも、教室で扱われる例文を示すほうがよいと考える。小学校英語は比較に適した実例が少ないため、ここでは図1をもとに、筆者が想定した会話を例文としている。(なお、例文は必ずしも小学校に適したものではない。)

図1. シラバス比較のために想定した教材例



<文法・構造シラバス>

Traveler: Excuse me. Do you speak English?

Police officer: Yes, a little.

T: Good. Do you know the way to the station?

P: Of course, but there's no landmarks to the station.

T: That's OK. Do you have a map?

P: Sure. Please come to the Koban.

現在形の疑問文、Do you...? を構成単位としていることが理解されよう。例文がDo you...? を繰り返しているのは、シラバスの違いを強調するために誇張したのであって、長所や短所を考察するためではない。

<機能・概念シラバス>

T: Excuse me. Can you tell me how to get to the station?

P: I can't speak English.

T: Will you show me the way to the station? P

: I can't speak English.

T: Where is the station, please?

P: Oh, station!

他人に何かを依頼する、という機能が構成単位である。例文はひとつの機能だけで会話を考えているが、普通は複数の機能を組み合わせる場合

が多い。文法・構造シラバスでは別個に扱われる Can you..? / Will you..? および Please. などの表現が、機能・概念シラバスでは同時に扱われることが理解されよう。

<場面シラバス>

T: Excuse me. I'm lost.
P: OK. Where are you going to?
T: I'm going to the station.
P: Station? It's too far to walk.
T: Can I take a bus or a taxi?
P: Yes. You can take a bus from there.

構成単位である「場面」とは、交番近くの路上という「場所」に、旅行者が警察官に道を尋ねるという「言語による相互交流」が加わったものである。

<タスク中心シラバス>

例文を示すことはできない。タスク中心シラバスでは、他のシラバスのように学習者が警察官や旅行者を演じることはしない。タスク中心シラバスでは、すべての会話は実際の伝達として行われるため、前もって予測することは不可能に近い。何らかのタスクが設定され、それを達成するための言葉のやりとりそのものが言語学習であるとされる。教室では次のような会話が行われるだろう。

Teacher: Today, we will draw a map.
Student: A map?
T: Yes, a map. OK, look at the picture.
S: Police officer!
T: Good! A police officer needs a map.
S: A map?

<その他のシラバス>

話題シラバスは、クラッシュンの外国語習得理論から見ると、話者の位置によって、場面シラバスにもタスク中心シラバスにもなり得るので、考察の対象としていない。

複数のシラバスを組み合わせる用いる、話題・場面シラバスや話題・機能シラバスなどについては、基本となるシラバスから導かれるため、独立したシラバスとして扱わなかった。

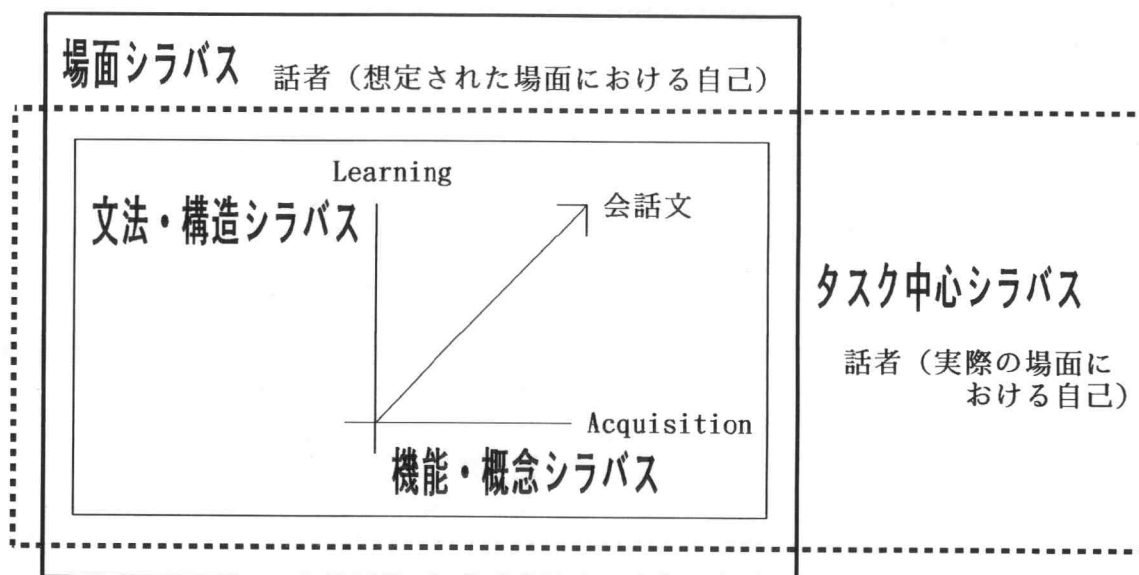
(2) 場面シラバスの問題点

平成6・7年度に本教育センターが行った小学校英語研究では場面シラバスを採用していた。例えば、「レストランへの道を尋ねる」「学校から帰宅しておやつを食べる」などの実践が試みられた。その後、次の問題点が指摘された。

- 1) 場面の選択と配列に理論的な根拠がない。
- 2) 場面に英語を使う必然性がない。

ひとつめの問題点は図2において説明される。図の中央にある Learning と Acquisition の軸は、クラッシュンの習得—学習仮説を筆者が図示したものである。クラッシュンは習得と学習を区別して、習得を「言語を『拾い集める』こと」^⑤、学習を「言語に『ついて知る』こと」^⑥としている。この仮説を適用すれば、ヴァン・エックやウィルキンズらの機能・概念シラバスは習得側の軸上に位置付けられ、伝統的な文法・構造シラバスは学習側の軸上に位置付けられる。これらの関係について田中正道は今から十年以上も前に、「概念・機能シラバスの唱導者たちが強調しているように、

図2. シラバス構成単位の相互関係



(AcquisitionとLearningはクラッシュンの仮説を筆者が図示したものである)

文法シラバスを補完しこそすれ、とって代わるようなものではないのである」^⑦と誤解を糺した。クラッシュンもまた、習得の重要性を指摘したのであって、学習を否定したのではない。クラッシュンは「我々は、習得の機会と適切な学習の可能性の両立をめざした計画を立てたいのである」^⑧として文法学習の必要性を明言している。

場面シラバスは、決して場面だけを要素とするものではない。「場面」は構成単位をさすものであり、「場面シラバス」に言語形式と言語行動が内在することは自明である。つまり、場面シラバスは言語形式としての文法・構造シラバス、および言語行動としての機能・概念シラバスを内包するものである。だから、図2から理解されるように、場面シラバスは文法・構造および機能・概念を根拠としなければ、外国語習得理論の裏付けを失ってしまうのである。一般的な場面シラバスが、Forms（形式）とFunctions（機能）を内容項目に加えていることは、その反映であろう。ところが、多くの先行研究が指摘するように、場面シラバスは、場面を文法・構造や機能・概念と結び付ける理論を持たない。

本教育センターが試みた平成6～7年度の場面シラバスは場面ばかりが強調され、文法や機能・概念に対する配慮が足らなかった。場面を距離的・時間的な広がりとしたのは誤りではないが、それをもって言語習得の広がりとすることはできない。その証拠に、距離的に遠い事象を話すには文法的に高度なものが必要なわけではないし、時間的に離れた事象を表現するには構造的に複雑なものが要求されるわけでもない。社会科では校区から市町村、都道府県、日本、そして世界へと学習内容を広げていくが、これは児童の空間認識の発達を根拠としているのであって、言語習得と結び付けることはできない。

場面については、どのように選択しどのように配列するのがよいか、まだ理論的に解明されていない。現実的な方法としては、学習者の要求から決めるか、教師が経験的に判断するかのどちらかになるだろうが、いずれにしても文法や構造に関する配慮が必要である。

ふたつめの問題点は、教室で学んだ英語を日常生活で使う場面がない、と言い換えることができる。ある先行実践では「外国の友達と…」という設定が、教室や運動場など場所を代えて繰り返し用いられていた。中には「日曜日の台所で手伝いをする」という場面設定もあるが、母親と英語を話す児童がどれだけ存在するのか、問うまでもな

いだろう。よく見られる買い物ごっこにしても、なぜ英語で買い物ごっこをせねばならないのか、その意味を問い直す必要があるだろう。

国際線のアテンダントなら、外国語を学ぶのに場面シラバスが最適であろう。離陸前のベルト点検、安定高度後の飲み物サービス、食事前の希望確認など、場面ごとに必要な表現を学べばよい。要するに、外国語が必要な場面が現実存在するからこそ、場面シラバスが用いられるのであって、無理をして場面を創作するのは本末転倒の謗りを逃れない。

第1節でも指摘したように、日本の子供たちが英語を必要とする場面は、日常ほとんどあり得ない。国際英語の習得という目的を掲げてみても、文レベルの発話という目標を設定してみても、いざ授業となると、場面シラバスに使える場面は限られている。そこで「外国の友達」といった要素を加えて場面が創作される。例えば、「外国人の友達に家の中を案内する」とか、「外国人の友達とクラブ活動について話す」など、確かに英語が必要な場面と言えるだろう。しかしながら、そのように非日常的な場面を創作してまで、場面シラバスにこだわる必要があるのか疑問である。「日曜日の台所で手伝いをする」というだけなら、日常ごくありふれた場面であるが、それを英語で行うとなると、これはもう場面シラバスのために無理やり作ったとしか言いようがない。

それでも場面シラバスが効果的であると考えるなら、場面作りに執着すべきかもしれない。ただし、その前に、小学校英語においてどのシラバス編成が最も効果が高いのか検証されてからの話である。

（3）タスク中心シラバスの問題点

ここまで、シラバスを「指導内容の選択と配列」として考えてきたが、タスク中心シラバスは意図的な言語内容の選択や配列を排除するため、一見、シラバスと呼べないような印象を与える。ここで注意すべきは、タスク中心シラバスでは「意図的な選択と配列」が否定されるのであって、言語内容そのものがなくなってしまうのではない、ということである。どのシラバスであろうとも学習者は外国語を身に付けるのであるから、タスク中心シラバスと言えども、指導内容に文法・構造や機能・概念を含むことは自明である。ただし、どのような内容がどのような順序で習得されるのか、やってみなければ分からない。図2で、タスク中心シラバスを破線で示したのは、このような理由

による。

クラッシュの習得—学習仮説からタスク中心シラバスを見ると、話者としての学習者の位置に他のシラバスと際立った違いが見られる。タスク中心シラバスでは、学習者は想定された場面における話者として発話するのではなく、常に実際の場面における話者として発話する。これはクラッシュの言う習得にあたるもので、児童はタスクを通して教師から「言語を『拾い集める』」ことができる。小学校英語でよく見られる買い物ごっこをタスク中心シラバスで行うとすれば、ごっこ遊びのためのお店づくり、品物ならべ、広告づくりなど、すべての準備が英語で指示されることになるだろう。「お店を作りましょう」という指示があれば、児童はLet's...の表現を聞き取るだろう。「品物はいくつありますか」という質問があれば、How many...?の言い方が身に付くだろう。このようにタスク中心シラバスでは、教室が常に実際の場面であり、児童はそこにおいて常に実際の伝達を行うのである。

実際の伝達を行うということから想起されるものにカナダのイマージョン教育がある。イマージョンを選択した子供は、いくつかの教科の授業を第2言語で受ける。教科学習はタスクと見ることができるので、これはタスク中心シラバスと同じであると言える。しかしながら、イマージョン教育がバイリンガルの育成に成功しているからといって、それをタスク中心シラバスの成果とすることはできない。イマージョン教育で忘れられがちなのは、例えば英語が母語である児童の場合、週5時間にも及ぶコア・フレンチと呼ばれる語学の授業を受けていることである。コア・フレンチの授業はタスク中心シラバスを採用していないので、イマージョン教育の有効性とタスク中心シラバスの効果は別のものである。むしろ、コアの果たす役割のほうが大きいかも考えられる。

平成6年度から行われている岐阜県生津小学校の実践は、学校が作成した冊子にはタスク中心シラバスと書かれていないが、同校の運営指導委員を務めた松川禮子によれば「シラバスの類型としては、活動、体験シラバス、あるいはタスク中心シラバスといえる」^⑨もので、我が国の小学校では数少ないタスク中心シラバスの実践例である。これをイマージョン教育と比較すると、コアの部分が抜け落ちていることに気が付く。バイリンガルの育成を目指すイマージョン教育と我が国の小学校英語を単純に比べることはできないが、タスク中心シラバスを検討する上で、ひとつの示唆と

なることは間違いない。

果たして、小学校英語はタスク中心シラバスのように「言語内容の意図的な選択と配列を排除」してよいのかどうか考えねばならない。松川は生津小学校で使われた文構造を調査している。調査は「あくまでも目安」であることを強調しながらも、松川が「疑問詞を使った文のバラエティが豊富なこと」^⑩を指摘しているのが注目される。松川はこれを問題視しないが、What...?やWhere...?がこれだけ繰り返し出てくるということは、このシラバスが同じ言語材料ばかり扱ってしまう危険性を暗示している。松川は同時に、「肯定文、疑問文の割に、否定文の出現回数が極端に少ないこと」^⑪も指摘している。言うまでもないが、生津小学校の英語科は言語材料を習得することを目標としていたのではないから、松川の調査は言語材料の偏りを指摘するためのものではない。

ところで、本カリキュラム開発は自発的な発話を目指すものであるから、クラッシュがコミュニケーション能力育成の鍵とした「習得」が大部分を占めるタスク中心シラバスは、無視できないものである。また、本カリキュラムの目標は「文による発話」であるから、言語材料の段階的な配列は不可欠である。言わば「系統性のあるタスク中心シラバス」という矛盾したシラバスを作らねばならない。イマージョンの例で言うならば、教科の部分とコアの部分を両立させたようなシラバスが作れないものかと考えた。

矛盾を調停する案として、クラッシュの「大ざっぱに調整されたインプット」という概念が適用できる。「大ざっぱに調整されたインプット」はインプット仮説に基づくもので、系統性は大きくないもののほうがよいとしている。大ざっぱな系統性であれば、意図的な配列を排除するタスク中心シラバスにも適用できるし、同時に言語材料の系統性も保つこともできる。図2からも理解されるように、文法・構造シラバスと機能・概念シラバスを系統的に調和させたシラバスがあれば、指導者はそれを「大ざっぱに調整されたインプット」として、タスク中心シラバスにも場面シラバスにも利用できる。だから、本カリキュラム案では、文法・構造シラバスと機能・概念シラバスを交差させたクロス・シラバスとでも言うべきものを提案する。これは何も新しい提案ではなく、機能—構造的編成と呼ばれるものと変わらないが、我が国の小学校英語カリキュラム案では初めての試みと言えるものであろう。

(4) 機能・概念シラバスと

文法・構造シラバスとの調和

どのようにすれば機能・概念シラバスと文法・構造シラバスを系統的に調和させることができるのか考えねばならない。問題は、次の2点に整理される。

- 1) 内容の選択には機能・概念と文法・構造のどちらを重視するのか。
- 2) 配列の系統性は機能・概念と文法・構造のどちらを中心とするのか。

ひとつめの答は機能・概念であると考え。本カリキュラム案は自発的な発話を目指すものであるから、クラッシュェンの言うAcquisition(習得)は非常に重要である。図2に示したように、習得側に位置するのは、機能・概念であるから、小学校英語では文法・構造よりも機能・概念が重視されねばならないことがわかる。

ふたつめの答は文法・構造であると考え。もともと機能・概念はどれから先に学習すべきか決められるものではない。一例として「好みや嫌悪を表現する」と「他人に何かを依頼する」を比べてみても、配列の順序が決められないことは明らかである。それに対して、文法・構造は古くから配列の基準として用いられている。

答をふたつ合わせると、内容の選択には機能・概念を重視しながら、配列の系統性は文法・構造を中心とすることになる。そのようなことが実際に可能なのか、具体的な作業過程を想像できるように比喩を用いて考えてみたい。無数にある会話文をリングとしよう。……リングは無数にあるので、色の赤くなったのを選んで収穫する。できるだけ赤いリングを選び、青いリングは混ざらないようにする。収穫したリングを今度は色ではなく、重さの順に並べて箱に詰めていく……。ここで機能・概念はリングの色、文法・構造はリングの重さに例えられる。各学年は箱である。

比喩とほぼ同じことを本カリキュラム開発では行っている。まず、指導内容の選択はヴァン・エックが行った機能による選択^⑨を利用した。次に、それを単語、2～3語、フレーズ、文、の構造順に配列した。最後に、時間配当を考慮しながら、各学年の指導計画を作成した。

機能による選択、そして構造による配列は典型的な機能一構造的編成と言えよう。構造一機能的編成ではないかという反論もあろうが、本カリキュラム案は小学生のための大変易しい内容を扱っていることに留意されたい。単語やフレーズなど、もともと明確な機能を持ち得ない発話については、

機能による選択や配列が不可能である。文法・構造による編成であれば、apple という単語は間違いなく名詞に分類されるが、機能による編成では、これを好みを表現したものか、それとも嫌悪を表現したものか分類できない。本カリキュラム案はこれを「大ざっぱに調整されたインプット」と考えるのである。

次章で示す低中高学年別機能分類には、低学年段階の内容としてYes, No, Good, OK など、ごく限られた内容しか示されていない。一見すると、構造一機能的編成にしか見えないが、構造が機能を限定しているのではない。明確な機能を持った表現としては選択されないだけであって、空欄には「大ざっぱに調整されたインプット」が想定されるのである。例えば、「要求や欲求を尋ねる」は低学年では扱わないのではなく、Tea? Coffee? のように単語だけで、十分な機能を果たす表現が可能である。言わば、本カリキュラム案が提示する機能一構造的編成は最低限の内容と配列であって、最終的な到達点ではない。

以上のようにして設計された機能一構造的編成はさまざまな指導計画を立てる上で骨組とすべきものである。次章で示す低中高学年別機能分類に文法指導を加えれば、文法・構図シラバスに近いものになるだろう。概念との組み合わせを図れば、機能・概念シラバスのようなものができ上がるだろう。場面シラバスやタスク中心シラバスのように利用することもできるだろう。中教審答申が「文法や単語の知識等を教え込むような方法は避けるよう」としたからと言って、指導計画が機能や構造を無視したものであってはならない。

① 安藤昭一「これからの英語教育と本事典の役割」(安藤昭一編、「英語教育現代キーワード事典」増進堂) p. xvii, 1991

② ③ Stephen D. Krashen and Tracy D. Terrell, *THE NATURAL APPROACH*, p. 33, 1983

④ 松川禮子「小学校に英語がやってきた！」アブリコット, p. 20, 1997

⑤ ⑥ Stephen D. Krashen and Tracy D. Terrell, 前掲書, p. 27

⑦ 青木昭六、田中正道編「伝達重視の英語教育」大修館書店, pp. 11-12, 1985

⑧ Stephen D. Krashen and Tracy D. Terrell, 前掲書, p. 71

⑨ 松川禮子, 前掲書, p. 42

⑩ ⑪ 松川禮子, 前掲書, p. 71

⑫ J. A. van Ek, *THE THRESHOLD LEVEL*, 1976

第2章 カリキュラム試案Ⅱ

第1節 低中高学年別機能案

表1は本カリキュラム案が提唱する機能一構造的編成を具体的に示したものである。簡潔に言えば、"The Threshold Level"^①のうち機能に関する部分を低・中・高学年の3段階に配列したものとえよう。同表1.1から6.7までの分類項目は同書を筆者が和訳したもので、項目の追加・削除や項目名の変更は行っていない。児童用に分類項目を設定し直すことも検討したが、元の分類体系を崩す恐れがあることから、本機能案では各項目に含まれる内容を児童用に修正する方法を採った。低・中学年の短い表現には追加したものが多く、高学年の長い表現には削除したものが多い。全体として見れば、各項目の内容は同書をかなり修正したものとなっている。

構造による段階づけは前編表1に基づいている。各段階の概要を再掲すると、

低学年……単語

中学年……2～3語または句

高学年……文

となっている。これらの段階は前編図2に示したように重なりがあるため、例えば低学年でも2語の表現があったり、中学年でも文が含まれていたたりする。また、常套句は使用頻度が高いと考えられるため、ひとつ早い段階に配列してある場合が多い。

今後、本機能案は実践を通して内容を修正する作業が必要である。中でも、高学年の修正は低学年からの積み上げが前提となるため、実践に至るまでに一定の年月がかかる。また、前編では、単語だけの発話がやがて2～3語の発話へと進んでいくことを検証したが、次はフレーズ、そして文へと発展していくことも同時に検証せねばならない。そのためにも、2～3年の短い実践ではなく、小学校6年間を見通した計画的かつ継続的な実践が必要である。

第2節 第1～6学年別指導計画案

表2は週1時間(年間35時間)の想定で小学校6年間の具体的な指導内容とその配列を示したものである。前編での経験から3ないし6時間をひとつのユニットとして配列する方法を採っている。これは「大ざっぱに調整されたインプット」を与えるために考えた方法で、ユニット内で同じインプットを繰り返しながら、同時に新しいインプットを加えられるようになっている。比喩的に表現

すると、指導者は「三步進んで二歩戻る」を繰り返しながら、インプットを与え続けるのである。

各ユニットには学年に応じた機能がひとつずつ配列されており、それぞれ3種ないし6種の概念が組み合わせてある。数学的に表現すると、文字どおり機能を関数(function)と考え、 $y=f(x)$ の独立変数 x を概念とすれば、発話は従属変数 y として導かれるようになっている。また、各学年1個ないし3個のユニットでは、機能と概念を逆関数的に扱うようになっている。これは場面シラバスを取り入れたもので、"The Threshold Level"の具体概念の中から、習得すべき語彙の多い場面や話題を選んである。場面や話題の選択ならびに配列は他教科との関連を配慮してある。

それぞれのユニットにはタスクを設定することもできるようになっている。例えば、第1学年10月の「動き(stop, go)」では学校案内をタスクとして、児童に外国人講師を案内させることができるだろう。同12月の「方向(right, left, back, forward)」ではスイカ割りをタスクとしたり、ラジコンカーの操縦をタスクとしたり、さまざまな工夫が可能である。このような教材開発の方法については第2部において西川が述べている。

① J. A. van Ek, 前掲書

おわりに

教育課程審議会「中間まとめ」は、「総合的な学習の時間(仮称:以下、総合学習と略記)」を新設することを明らかにした。これについて、熱海則夫はかつての学校裁量の時間を例に挙げて「長続きしないで尻つぼみになったり、マンネリ化した例もあるので、そのてつをふまないようにすべきである」^①と述べている。熱海の警告は総合学習としての小学校英語にも当てはまることであって、小学校教育に携わる者はこれを真摯に受け止めなくてはならないだろう。

本カリキュラム案は教材を工夫することによって、総合学習に適用することができる。なぜなら、カリキュラムの編成原理とした機能一構造的編成は確固たる言語習得理論を基礎としているため、どのようにも発展させることが可能だからである。本カリキュラム案に「尻つぼみ」や「マンネリ化」の言葉は馴染まない。

① 熱海則夫「新しい教育課程の方向と課題」

「中間まとめ全文と解説」東洋館出版p.4 1997

表1. 低中高学年別機能一覧

Abbreviations:	NP Noun-phrase.
	VP Verb-phrase.
	N Noun.
	Vinf Infinitive without to.
	Vto Infinitive with to.
	Ving Verbal from in -ing.
	Ved Past participle.

No.機能分類(項目は“The Threshold Level”による)

低学年	中学年	高学年
1. 事実情報		
1.1 アイデンティティを認識する		
This. / That. This + noun. / That + noun. I / you / we Yes.	This is NP. / That is NP. This N is NP. / That N is NP. I am NP. / You are NP. / We are NP. declarative phrases Yes, he is, etc.	These are NP. / Those are NP. These Ns are NP. / Those Ns are NP. He is NP. / She is NP. / They are NP. declarative sentences
1.2 報告する(描写や叙述を含む)		
	declarative phrases	declarative sentences
1.3 修正する		
Never. No. Nobody. Nothing.	phrases containing the negation-words	negative sentences with not sentences containing the negation-words
1.4 質問する		
When? Where? What? Which? Who?	interrogative phrases question-word phrases with : when, what, etc. Tell me. About + NP.	interrogative sentences question-word sentences with : what, etc. Tell me + sub-clause. Tell me about +NP.
2. 知的態度		
2.1 同意や反対を表現する		
Right. All right. Sure. Yes. No. OK.	I agree. That's right. Of course. Yes, it is. / Yes, I am. etc. I don't agree. I don't think so. No, I don't. / No, it isn't. etc.	Of course not. Yes, I can. / Yes, he may. etc.
2.2 同意または反対を尋ねる		
	Do you agree? Do you think so?	short questions

2.3 何かを否定する

No (adverb). Never. Nobody. Nothing.	No (adjective). No + negative short answers	negative sentences with not sentences containing the negation-words
---	--	--

2.4 申出や招待を受ける

Thank you. Yes. / OK. All right.	Yes, please.	I'm very glad + Vto ... That will be very nice.
--	--------------	--

2.5 申出や招待を断わる

No.	No, thank you.	I'm afraid I cannot ...
-----	----------------	-------------------------

2.6 申出や招待を受けるのか断るのか尋ねる

		Will you + VP (do it, come, etc.)?
--	--	------------------------------------

2.7 何かすることを申し出る

	Can + I + Verb?	Can I + VP?
--	-----------------	-------------

2.8 何かや誰かを知っているか知らないか述べる

	I (don't) know.	I (don't) know + noun or pronoun.
--	-----------------	-----------------------------------

2.9 何かや誰かを知っているか知らないか尋ねる

	Do you know?	Do you know + noun or pronoun?
--	--------------	--------------------------------

2.10 何かや誰かを覚えているか忘れたか述べる

	I (don't) remember. I forgot.	I (don't) remember + noun or pronoun. I (don't) remember + gerund. I (don't) remember + that-clause. I forgot to (bring my glasses, etc.).
--	----------------------------------	---

2.11 何かや誰かを覚えているか忘れたか尋ねる

	Do you remember? Do you forget?	Do you remember + noun or pronoun? Do you remember + gerund? Do you remember + that-clause? Do you forget to (bring your glasses, etc.)?
--	------------------------------------	---

2.12 何かが可能または不可能と思われるか表現する

	It is possible. It is impossible. It is not possible.	It is possible + that-clause NP + can + VP It is not possible + that-clause. NP + cannot + VP
--	---	--

2.13 何かが可能または不可能と思われるか尋ねる

	Is it possible?	Is it possible + that-clause? Can + NP + VP?
--	-----------------	---

2.14 能力があるかないか表現する

		NP + can (not) + VP
--	--	---------------------

2.15 能力があるかないか尋ねる

		Can + NP + VP?
--	--	----------------

2.16 論理的に妥当な結論（推論）だと表現する

		NP + must + VP NP + cannot + VP
--	--	------------------------------------

2.18 自分はどのくらい確信をもっていると表現する

Perhaps ...	I am sure. I am not sure. I think so. I don't think so.	I am sure + that-clause. declarative sentence I know + that-clause. I think + that-clause. NP + may + VP. I am not sure that-clause. NP + cannot + VP. I don't think + that-clause.
-------------	--	--

2.19 他人がどのくらい確信をもっているか尋ねる

	Are you sure? Do you think so?	Are you sure + that-clause? Do you think + that-clause?
--	-----------------------------------	--

2.20 自分がせねばならないのか否かを表現する

		I (don't) have to + VP.
--	--	-------------------------

2.21 自分が何かをせねばならないのか尋ねる

		Do I have to + VP?
--	--	--------------------

2.22 他人がせねばならないのか否かを表現する

	It is (not) necessary. You must + Verb.	NP + (don't / doesn't) have to + VP. You must + VP.
--	--	--

2.23 他人が何かをせねばならないのか尋ねる

		Do / Does + NP have to + VP?
--	--	------------------------------

2.24 何かをすることの許可を与えたり求めたりする

All right.	You may + Verb. Of course. That's all right. May I + Verb?	You may + VP May I + VP?
------------	---	-----------------------------

2.26 許可は見合わされたと述べる

	Don't + Verb.	Don't + VP.
--	---------------	-------------

3. 感情的態度

3.1 喜びや好みを表現する

Very good.	This is nice. I like noun (-group) or pronoun. I like + Ving ... It's very good.	This is very nice. I love + noun or pronoun. It's a very good + noun.
------------	---	---

3.2 不快や嫌悪を表現する

	This is not good. I don't like + noun (-group) or pronoun. I don't like + Ving ...	
--	--	--

3.3 喜び, 好み, 不快, 嫌悪について尋ねる

	Do you like + noun (-group) or pronoun? Do you like + Ving ...?	
--	--	--

3.4 興味があるかないか表現する

Interesting.	That's (not) interesting.	That's very interesting. I am (not) interested + in + noun or pronoun.
--------------	---------------------------	---

3.5 興味があるかないか尋ねる

	Are you interested?	Are you interested + in + noun or pronoun?
--	---------------------	--

3.6 驚きを表現する

	What a surprise!	This is a surprise! How nice + Vto ...!
--	------------------	--

3.7 期待を表現する

	I hope so.	I hope + that-clause.
--	------------	-----------------------

3.8 満足を表現する

Very good. All right.	This is very good. It's all right.	This is what I want.
--------------------------	---------------------------------------	----------------------

3.9 不満を表現する

	I don't like this. This is not right.	This is not what I want.
--	--	--------------------------

3.10 満足か不満か尋ねる

All right?	Do you like this? Is it all right?	Is it all right now? Is this what you want?
------------	---------------------------------------	--

3.11 がっかりしたと表現する

Sorry.	That's a pity. I'm sorry.	That's a great pity. I'm very sorry + Vto ...
--------	------------------------------	--

3.12 恐れや心配を表現する

	I'm afraid. I'm worried.	I'm worried + about NP
--	-----------------------------	------------------------

3.13 恐れや心配を尋ねる

	Are you afraid? Are you worried?	
--	-------------------------------------	--

3.14 好きな順を表現する

		I prefer + noun or pronoun.
--	--	-----------------------------

3.15 好きな順を尋ねる

Which?		Which do you prefer?
--------	--	----------------------

3.16 感謝を表現する

Thank you.	Thank you very much. It is nice of you. It is kind of you.	It is nice of you + Vto ...
------------	--	-----------------------------

3.17 感情の一致を表現する

Sorry.	I am sorry. I am glad.	I am sorry + Vto I am glad + Vto ...
--------	---------------------------	--

3.18 意向を表現する

		I'm going + Vto ... I'll + Vinf ... I intend + Vto ...
--	--	--

3.19 意向を尋ねる

		Are you going + Vto ...? Will you + Vinf ...? Do you intend + Vto ...?
--	--	--

3.20 要求や欲求を表現する

	I want + noun (-group) or pronoun	I'd like + noun (-group) or pronoun I'd like + Vto ... I want + Vto ... May I have + noun (-group) or pronoun (please)?
--	-----------------------------------	--

3.21 要求や欲求を尋ねる

	Do you want + noun (-group) or pronoun?	Would you like + noun (-group) or pronoun? Would you like + Vto ...? Do you want + Vto ...?
--	---	---

4. 道義的態度

4.1 おわびする

Sorry! Excuse me.	I'm sorry. Excuse me, please.	I am very sorry.
----------------------	----------------------------------	------------------

4.2 許す

All right.	That's all right. It's all right.	It's all right now. It doesn't matter.
------------	--------------------------------------	---

4.3 良いと表現する

Good! Fine!	That's fine!	
----------------	--------------	--

4.4 良くないと表現する

	It's not good.	You shouldn't + Vinf ... It's not very nice.
--	----------------	---

4.5 良いか良くないか尋ねる

All right?	Is this all right?	Do you think this is all right?
------------	--------------------	---------------------------------

4.6 高く評価する

Very good.	It's very good.	
------------	-----------------	--

4.7 残念だと表現する

	I'm sorry. That's a pity.	I am so / very sorry. That's a (great) pity.
--	------------------------------	---

4.8 無関心だと表現する

		It doesn't matter.
--	--	--------------------

5. 処理事項

5.1 行動を提案する（話者を含む）

	Let's + Verb. Shall we + Verb?	Let's + VP. Shall we + VP? We could + VP. What about + Ving ...?
--	-----------------------------------	---

5.2 他人に何かをするよう依頼する

Please.	Please + Verb.	Would / Could you (please) + VP? Can I have + NP + Ved (,please)?
---------	----------------	--

5.3 他人に何かをするよう誘う

		Would you like + Vto ...? What about + Ving ...? What about + a drink, a nice walk, etc.?
--	--	---

5.4 他人に何かをするよう忠告する

		You should + VP. Why don't you + VP?
--	--	---

5.5 他人に禁止したり警告したりする

Be careful! Look out!	Don't + Verb.	Don't + VP.
--------------------------	---------------	-------------

5.6 他人に教えたり指示したりする

	imperative phrases	imperative sentences
--	--------------------	----------------------

5.7 援助を申し出る

Help?		Can I help you?
-------	--	-----------------

5.8 援助を求める

Help.	Help me, please.	Can you help me?
-------	------------------	------------------

6. 社交辞令

6.1 あいさつ

Hello. Good morning. Good afternoon.	Good evening.	
--	---------------	--

6.2 人に会った時

Hello. How are you? Fine, thank you.		I'm fine, thank you.
--	--	----------------------

6.3 紹介したり, されたりする時

Hello.	How do you do. This is ...	
--------	-------------------------------	--

6.4 退出する時

Good-bye. See you.	See you tomorrow. Good night.	See you next week / etc.
-----------------------	----------------------------------	--------------------------

6.5 注目させようとする

Excuse me.		
------------	--	--

6.6 乾杯する

Cheers!		Here's to ...
---------	--	---------------

6.7 祝福する

	Congratulations!	
--	------------------	--

<第1学年指導計画>

4月		5月				6月				7月	
1週	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12

1学期

非言語的応答

1. 日本語で伝える (集団)	2. 動作で伝える (集団)	3. 日本語や動作で伝える (個人)
① こんにちは・さようなら ② はい・いいえ ③ ありがとう ④ ～したいです	① これ・あれ ② だめ・よろしい ③ わかりません	① こんにちは・さようなら ② はい・いいえ ③ これ・あれ ④ だめ・よろしい

2学期

単語での応答
(集団)

9月		10月				11月				12月			
13 週	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26

4. アイデンティティを認識する (I./You.)
① 名前 (teacher's name) ② " (one's own name) ③ 性別 (boy/girl, group, 1-10) ④ 国籍 (Japan, Japanese, etc.)

5. 他人に教えたり指示したりする (verbs)
① 動き (stand up, sit down) ② " (come, stop, go) ③ 体の部分 (head, back, arm, hand, leg, foot, hair) ④ 実演 (show) / 表現 (tell) ⑤ " (write, say)

6. 同意や反対を表現する (Yes./No.)
① 数 (11-20) ② 量 (all, more) ③ 色 (blue, black, green, red, white, yellow, color) ④ 形 (square, circle, triangle, rectangle) ⑤ 方向 (right, left, forward, back)

* あいさつ (Hello.) / 退出する時 (Good-bye.) * 教具 (chair, desk, board) / 文房具 (pencil, eraser, scissors)

1月		2月				3月			
27週	28	29	30	31	32	33	34	35	

3学期

単語での応答
(個人)

7. 食べ物と飲み物の種類 (food, eat, drink, rice, egg, fish, meat, soup, bread, water, sugar, salt, etc.)
① 他人に何かをするよう依頼する (Please.) ② 感謝を表現する (Thank you.) ③ 同意や反対を表現する (OK.) ④ 良いと表現する (Good.) ⑤ おわびする (Sorry.)

8. 喜びや好みを表現する (Good.)
① 音 (sound, loud, soft, listen, noise) ② 味 (taste, sweet, bitter, nice, bad) ③ 匂い (smell, pleasant, nice, bad) ④ 手触り (hard, soft, rough, strong)

文機能を中心に構成された単元
(凡例)

概念を中心に構成された単元

ゴシック：文機能を表す
明朝：一般概念を表す
楷書：具体概念を表す

* 質問する (What?) / 援助を求める (Help.)

* 適宜取り扱う内容

<第2学年指導計画>

小学校英語

4月			5月			6月			7月		
1週	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12

1学期

単語での

質問と応答

1. 質問する／報告する (描写や叙述を含む)						2. 質問する (When?) / 報告する					
① 大小 (big, small)	* 動物 (animal, insect, cow, pig, horse)					① 時間の一点 (spring, summer, fall, winter)					
② " (high, low)	* 植物 (plant, flower, tree, grass)					② " (yesterday, today, tomorrow)					
③ " (thick, thin)	* 愛玩動物 (cat, dog, bird, fish)					③ " (names of the day of the week)					
④ 長さ (long, short)						④ 生年月日 (year, cardinal numerals used to indicate years)					
⑤ 圧力 (heavy, light)						⑤ " (month, names of the month)					
⑥ 温度 (hot, cold)						⑥ " (day, cardinal numerals up to 31)					

9月			10月			11月			12月				
13週	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26

2学期

単語での

質問と応答

3. 質問する (Who?) / 報告する	
① 配列 (first, last)	
② 家族 (mother, father, sister, brother)	
③ 性格 (kind, nice, bad)	
④ 友情 (friend)	

4. 質問する (Where?) / 報告する	
① 場所 (here, there)	
② 校舎 (gym, library, toilet, playground)	
③ 地域 (mountain, river, factories, etc.)	
④ 買い物の利便 (shop, supermarket, etc.)	

5. 質問する (Which?) / 報告する	
① 正しさ (right, wrong) / 分離 (or)	
② 価格 (expensive, cheap)	
③ 品質 (good, better, bad)	
④ 容易 (easy, difficult)	
⑤ 正常 (normal, strange)	
⑥ 成功 (success, fail)	

* あいさつ (Good morning. / Good afternoon.) / 退出する時 (See you.)

1月			2月			3月		
27週	28	29	30	31	32	33	34	35

3学期

単語での

質問と応答

6. スポーツ (baseball, *sumo* soccer, team, play, game, swim, ball, win, lose, field, sport, watch, etc.)

① 興味があるかないか表現する (Interesting.)

② 良いか良くないか尋ねる (All right?)

③ 満足を表現する (All right.)

④ 同意や反対を表現する (Sure.)

⑤ 良いと表現する (Fine.)

文機能を中心に構成された単元

(凡例)

概念を中心に構成された単元

ゴシック：文機能を表す

明朝：一般概念を表す

楷書：具体概念を表す

* 適宜取り扱う内容

<第3学年指導計画>

小学校英語

4月				5月				6月				7月			
1週	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12				

1学期

2～3語での応答

1. 他人に何かを依頼する (Please+Verb.) ①開始 (start) / 中止 (stop) ②安定 (wait, stay) ③可視性 (look) / 可聴性 (listen) ④動き (come) / 表現 (answer)	2. 報告する (NP=Noun phrases) ①結合 (A, B, and C) / 所有権 (my, your) ②包含 (A + with + B) ③部屋 (in + noun, kitchen, bathroom, garden, etc.) ④家具 (on + noun, table, bed, bookcase, etc.) ⑤郵便 (from/to + noun, letter, send, receive)	3. 他人に禁止する (Don't+Verb.) ①動き (move, walk) ②表現 (laugh, speak) ③喫煙 (smoke) / 飲酒 (drink)
--	--	---

* 人に会った時 (How are you?/Fine, thank you.)

* 行動を提案する (Let's + VP.)

9月				10月				11月				12月			
13週	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26		

2学期

2～3語での質問と応答

4. 質問する (How many?) / 報告する ①数 (singular or plural) ②" (cardinal numerals up to 100) ③" (numerals + nouns) ④切符 (ticket, child, adult)

* 月日 (ordinal numerals up to 31)

5. 質問する (What time?) / 報告する ①時間の一点 (o'clock) ②" (8:45am, 4:15pm, etc.) ③学校の日課 (school, begin, end, lesson, break) ④家庭の日課 (get up, go to school, etc) ⑤" (go home, take bath, watch TV, etc.)
--

6. 衣服, ファッション (clothes, dress, suit, shirt, jacket, trousers, blouse, shoes, socks, coat, etc.) ①7/47/7/47を認識する (This+noun, /That+noun.) ②" (These+noun, /Those+noun.) ③他人に何かをするよう依頼する (Noun+please.) ④好み/嫌悪を表現する (Very good, /It's not good.) ⑤申出を受ける/断る (Yes, please, /No, thank you.)
--

1月				2月				3月			
27週	28	29	30	31	32	33	34	35			

3学期

2～3語での質問と応答

7. 質問する (How much?) / 報告する ①量 (all/half/no + noun) ②" (a lot of/little + noun) ③価格 (yen, dollar, cent, money, pay) ④数 (about)
--

* 注目させようとする (Excuse me.)

8. 他人に教えたり指示したりする (VP=Verb phrases) ①動き (go to, come to) / 方向 (turn) ②可視性 (look at) / 可聴性 (listen to) ③清潔さ (wash, clean) * 生活用品 (bath, etc.) ④方向 (bring, carry) * 家庭用品 (fork, etc.) ⑤" (take, put) * 設備 (gas, water, etc.)
--

(凡例)

文機能を中心に構成された単元

概念を中心に構成された単元

ゴシック：文機能を表す
明朝：一般概念を表す
楷書：具体概念を表す

* 適宜取り扱う内容

<第4学年指導計画>

小学校英語

4月			5月			6月			7月		
1週	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12

1学期

フレーズ
での応答

1. @アイデンティティを認識する	2. 場所 (bridge, corner, crossing, square, direction, map, north, south, east, west, street, path, way, road, lose one's way, etc.)
①アルファベットを読む (大文字を読む)	①相対的位置 (at + NP, in + NP)
② " (" ")	② " (on + NP, in + the north/south/west/east)
③名前 (A, B, C, etc. 大文字で自分の名前を書く)	③ " (behind + NP, in front of + NP, between + NP)
④ " (" ")	④方向 (from + NP, to + NP)
⑤住所 (KYOTO, JAPAN, etc. 大文字で京都と日本を書く)	⑤距離 (near + NP, far from + NP)
⑥ " (" ")	⑥質問する (How far?) / 長さ (kilometer, meter)

9月			10月			11月			12月				
13週	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26

2学期

フレーズ
での応答

3. @アイデンティティを認識する	4. 喜び, 好み, 不快, 嫌悪を表現する
①アルファベットを読む (小文字を読む)	①程度 (very ...) * 個人的快楽 (tired, well, hungry, etc.)
② " (" ")	② " (too ...) * 清潔 (clean, dirty)
③性別 (sex, man/womanを小文字で書く)	③ " (much ...) * きれい (a little ...)
④年齢 (age, birthday " ")	
⑤名前 (Mr./Ms.を大文字と小文字で書く)	

5. 公的輸送 (travel by air/car/bus/train, station, airport, slow, fast, arrive, leave, departure, etc.)	①質問する (How? / Tell me.)
	②教えたり指示したりする (imperative phrases)
	③意向を表現する (Vinf=Infinitive without to)
	④要求や欲求を表現する (Vto=Infinitive with to)
	⑤時の長さ (for + ... hour / minute / moment)

1月			2月			3月		
27週	28	29	30	31	32	33	34	35

3学期

フレーズでの
質問と応答

6. 質問する (Why?) / 報告する	7. 質問する (What + noun?) / 報告する
①対作格 (for + NP) * 教科 (study, choose, etc.)	①衣服 (What color? / What size?)
② " (" ")	②映画 (What number? seat, front, back, center)
③目的 (to + Vinf...)	③時間の一点 (What day of the week?)
④ " (" ")	④出版物 (What book? newspaper, magazine, etc.)
	⑤性格 (What sort of man/woman?)

(凡例)

文機能を中心に構成された単元

概念を中心に構成された単元

①シグ: 文機能を表す
②明: 一般概念を表す
③書: 具体概念を表す

* 適宜取り扱う内容
@ 文字を扱う内容

* 他人に警告する (Be careful! / Look out!)

<第5学年指導計画>

4月				5月				6月				7月			
1週	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12				

1学期

文での応答

1. アイデンティティを認識する (I am ...) ① 名前 / 出身地 (from Japan) ② 性別 / 年齢 (... years old) ③ 学校 / 学年 (student, grade)	2. アイデンティティを認識する (noun + is... / nouns + are...) ① 地域 (farm, lake, hill, forest, beach, island) ② " (land, valley, field, top, high, deep, etc.) ③ 存在 (There is ... / There's no ...) ④ 国と場所 (city, town, village, place, center, etc.) ⑤ 設備 (on/off) / 出入りの可否 (open/closed)	3. アイデンティティを認識する (This/That is ...) ① 満空状態 (full, empty) ② 同等 (the same, different) ③ 所有権 (mine, yours) ④ 重要 (important) / 有用 (useful)
--	--	---

* アルファベットを書く (@大文字を書く) * 良いか尋ねる (Is this all right?)

9月				10月				11月				12月			
13週	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26		

2学期

文での応答

4. 報告する / 修正する (I have... / I don't have...) ① 病気 (pain, fever, cold) ② レクリエーション (club, party, excursion) ③ 正確さ (question) / 修理 (trouble) ④ 家庭の日録 (breakfast, lunch, dinner)

* アルファベットを書く (@小文字を書く)

5. 喜びや好み / 不快や嫌悪を表現する (I like... / I don't like...) ① 食べ物 (pepper, mustard, sweet, bitter, etc.) ② スポーツ (names of one's own favorite sports) ③ 芸術的 (names of one's own favorite art-form) ④ 音楽 (singer, musician, song, etc.) ⑤ 愛玩動物 (the learner's won pets, etc.)

* 可能か尋ねる (Is it possible?)

6. 気象条件 (weather, warm, cool, sun, moon, star, ice, snow, rain, wind, storm, freeze, temperature, etc.) ① 報告する (It's...) ② " (We have...) ③ " (It will be...) ④ 無関心 (It doesn't matter. / I don't care.) ⑤ 時間の一点 (this morning/afternoon, etc.)

1月				2月				3月			
27週	28	29	30	31	32	33	34	35			

3学期

文での応答

7. 何かを知っているか知らないか述べる (I know... / I don't know...) ① 電話番号 (telephone, etc.) ② 政治 (president, minister, etc.) ③ テレビ (television, music, news, etc.) ④ 映画 (movie, film, actor, actress, etc.)
--

* 確信を持っているか尋ねる (Are you sure?)

8. 外国語 (understand, read, well, simple, word, call, explain, mean, translate, dictionary, pronounce) ① 質問する (What do you call this?) ② " (What do you mean?) ③ 修正する (That's not clear to me.) ④ 意向を尋ねる (I beg your pardon?) ⑤ " (Will you speak slowly, please?)
--

(凡例)

文機能を中心に構成された単元

概念を中心に構成された単元

ジック：文機能を表す

明朝：一般概念を表す

楷书：具体概念を表す

* 適宜取り扱う内容

@文字を扱う内容

<第6学年指導計画>

4月				5月				6月				7月	
1週	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
1. 喜び, 好み, 不快, 嫌悪について尋ねる (Do you like ...?)				2. 他人に何かするよう依頼する (Can I have ...?)				3. ④国籍 (Korea, Korean, China, Chinese, Russia, Russian, America, American)					
①日課 (go for a walk, play games, etc.)				①外食 (bill, menu, table, waiter, etc.)				①知っているか尋ねる (Do you know ...?)					
②ラジオ・テレビ (radio, CD, tape, etc.)				②飲食物 (dessert, coffee, tea, etc.)				②質問する (Tell me about + NP.)					
③気候 (dry, rainy, cloudy, climate, etc.)				③映画, 演劇 (ticket, program, etc.)				③7日デンティを認識する (He/She is ...)					
④地域 (mountains, near the sea, etc.)				④同等, 不等 (another, other)				④質問する (Do you have ...?)					

* ④近隣の国名を読む

9月				10月				11月				12月	
13週	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
4. ④アイデンティティを認識する				5. 要求や欲求を尋ねる/表現する (Do you want ...? / I want ...)				6. 国と場所 (Asia, America, Africa, Europe, Australia, world)					
①署名をする (sign, signature)				①なりた職業 (job, office, shop, etc.)				①確信を持っていると表現する (I think + that-clause.)					
②チェックする (check, mark, etc.)				②試験 (examination, pass, fail, etc.)				②" か尋ねる (Do you think + that-clause?)					
③日付を書く (September 30 1997, etc.)				③私物輸送 (car, gas, motorcycle, etc.)				③興味があるかないか表現する (I'm (not) interested in ...)					
④宛名を書く (city, state, zip, etc.)				④婚姻 (marry, wife, husband, child, etc.)				④論理的に妥当だと表現する (NP + must + VP.)					
								⑤自分がせねばならないと表現する (I have to ...)					
								⑥期待を表現する (I hope that-clause.)					

* ④標識を読む (Exit, Caution, Free, etc.)

1月				2月				3月			
27週	28	29	30	31	32	33	34	35			

(凡例)

文機能を中心に構成された単元

3学期

文での質問と応答

7. 重さと尺度 (lb., oz., mile, yard, foot, inch, etc.)			
①他人に依頼する (Would you please ...?)			
②可能か尋ねる (Is it possible + that-clause?)			
③せねばならないのか尋ねる (Do I have to ...?)			
④何かを否定する (negative sentences with not)			
⑤満足/不満を表現 (This is (not) what I want.)			

* ④略号を読む (NET, WT, Ltd., etc.)

概念を中心に構成された単元

ジック: 文機能を表す
明朝: 一般概念を表す
楷書: 具体概念を表す

* 適宜取り扱う内容
@ 文字を扱う内容

April		May			June					July	
1st week	2nd	3rd	4th	5th	6th	7th	8th	9th	10th	11th	12th

1st Term

Nonverbal
response

1. Response in Japanese. (in group)	2. Response by action. (in group)	3. Response in Japanese or by action. (in person)
① kon-nichi-wa, sayonara ② hai, iie ③ arigato ④ ~shitai-desu	① kore, are ② dame, yorosii ③ wakari-masen	① kon-nichi-wa, sayonara ② hai, iie ③ kore, are ④ dame, yoroshii

2nd Term

A single word
(in group)

September				October				November				December			
13th week	14th	15th	16th	17th	18th	19th	20th	21st	22nd	23rd	24th	25th	26th		
4. Identifying. (I./You.)				5. Instructing or directing others to do something. (verbs)				6. Expressing agreement and disagreement. (Yes./No.)							
① <i>Name</i> (teacher's name)				① Motion(stand up, sit down)				① Number(11-20)							
② " (one's own name)				② " (come, stop, go)				② Quantity(all, more)							
③ <i>Sex</i> (boy/girl, group, 1-10)				③ <i>Parts of the body</i> (head, back, arm, hand, foot)				③ Color(blue, black, green, red, white, yellow)							
④ Demonstration(show) / Expression(tell)				④ Shape (square, circle, triangle, rectangle)				④ <i>Nationality</i> (Japan, Japanese, etc.)							
				⑤ " (write, say)				⑤ Direction(right, left, forward, back)							
*To greet people. (Hello.) / When taking leave. (Good-bye.) * <i>School furniture</i> (chair, desk, board) / <i>Stationery</i> (pen, pencil, eraser, scissors)															

* To greet people. (Hello.) / When taking leave. (Good-bye.) * School furniture (chair, desk, board) / Stationery (pencil, eraser, scissors)

January		February			March			
27th week	28th	29th	30th	31st	32nd	33rd	34th	35th

3rd Term

A single word
(in person)

7. Types of food and drink (food, eat, drink, rice, egg, fish, meat, soup, bread, water, sugar, salt, etc.)	8. Expressing pleasure, liking. (Good.)
① Requesting others to do something. (Please.)	① Audibility (sound, loud, soft, listen)
② Expressing gratitude. (Thank you.)	② Taste (sweet, bitter, nice, bad)
③ Expressing agreement and disagreement. (OK.)	③ Smell (pleasant, nice, bad)
④ Expressing approval. (Good.)	④ Texture (hard, soft, rough, strong)
⑤ Apologizing. (Sorry.)	

Units composed of language functions.

Units composed of specific notions.

Fonts are used as Gothic = Language functions

Normal = General notions

Italic = Specific notions

* Marked materials have to be learned through the terms or the units.

* Asking. (What?) /

Requesting assistance. (Help)

April			May				June				July	
1st week	2nd	3rd	4th	5th	6th	7th	8th	9th	10th	11th	12th	

1st Term

A single word

1. Asking.	2. Asking. (When?) / Reporting.	
/ Reporting. (including describing and narrating)		
① Size (big, small)	* <i>Animals</i> (insect, cow, pig, horse)	① Point of time (spring, summer, fall, winter)
② " (high, low)	* <i>Plants</i> (plant, flower, tree, grass)	② " (yesterday, today, tomorrow)
③ " (thick, thin)	* <i>Pets</i> (cat, dog, bird, fish)	③ " (names of the day of the week)
④ Length (long, short)		④ <i>Date of birth</i> (cardinal numerals used to indicate years)
⑤ Pressure (heavy, light)		⑤ " (month, names of the month)
⑥ Temperature (hot, cold)		⑥ " (day, cardinal numerals up to 31)

September			October				November				December	
13th week	14th	15th	16th	17th	18th	19th	20th	21st	22nd	23rd	24th	26th

2nd Term

A single word

3. Asking. (Who?) / Reporting.	4. Asking. (Where?) / Reporting.	5. Asking. (Which?) / Reporting.
①Arrangement(first, last)	①Location(here, there)	①Rightness(right, wrong) / Disjunction(or)
②Family(mother, father, sister, etc.)	②School/house(gym, library, playground)	②Price(expensive, cheap)
③Character (kind, nice, bad)	③Region(mountain, river, etc.)	③Quality (good, better, bad)
④Friendship(friend)	④Shopping(shop, supermarket, etc.)	④Facility(easy, difficult)
		⑤Normality(normal, strange)
		⑥Successfulness(success, fail)
	</	

January			February				March			
27th week	28th	29th	30th	31st	32nd	33rd	34th	35th		

3rd Term

A single word

6. <i>Sports</i> (baseball, <i>sumo</i> , soccer, team, play, game, swim, ball, win, lose, field, sport, watch, etc.)	7. Denying something. (No. Never. Nothing. Nobody.)			
① Inquiring about interest. (Interesting.)	① <i>Aliments</i> (dead, alive)			
② Inquiring about approval. (All right?)	② Visibility (see, dark, light)			
③ Expressing satisfaction. (All right.)	③ Occurrence (happen)			
④ Expressing agreement. (Sure.)	/ Possibility (impossible)			
⑤ Expressing approval. (Fine.)	④ Frequency (always, sometimes)			

Units composed of language functions.

Units composed of specific notions.

Fonts are used as Gothic = Language functions

Normal = General notions

Italic = Specific notions

* Marked materials have to be learned through the terms or the units.

April			May			June					July	
1st week	2nd	3rd	4th	5th	6th	7th	8th	9th	10th	11th	12th	

1st Term

Combination
of two or
three words

1. Requesting others to do something. (Please + Verb.)	2. Reporting. (NP=Noun phrases)	3. Warning others to refrain from doing something. (Don't + Verb.)
① Commencement(start)/Cessation(stop)	① Conjunction(A, B, and C)/Ownership(my, your)	① Motion(move, walk)
② Stability(wait, stay)	② Inclusion(A + with + B)	② Expression(laugh, speak)
③ Visibility(look)/Audibility(listen)	③ Rooms (in + noun, kitchen, bathroom, etc.)	③ <i>Smoking/Drinking</i>
④ Motion(come)/Expression(answer)	④ Furniture (on + noun, table, bed, bookcase, etc.)	
	⑤ Correspondence(from/to + noun, send, receive)	

* When meeting people. (How are you? / Fine, thank you.)

* Suggesting a course of action. (Let's + VP.)

September				October				November				December	
13th week	14th	15th	16th	17th	18th	19th	20th	21st	22nd	23rd	24th	25th	26th

2nd Term

Combination
of two or
three words

4. Asking. (How many?)/Reporting.	5. Asking. (What time?)/Reporting.
① Number(singular or plural)	① Point of time(o'clock)
② " (cardinal numerals up to 100)	② " (8:45am, 4:15pm, etc.)
③ " (numerals + nouns)	③ <i>Daily routines</i> (school, begin, end, lesson, break)
④ Tickets (ticket, child, adult)	④ " (get up, go to school, etc.)
	⑤ " (go home, take bath, etc.)

* Date(ordinal numerals up to 31)

6. <i>Clothes, fashion</i> (clothes, dress, suit, shirt, jacket, trousers, blouse, shoes, socks, coat, etc.)	① Identifying. (This + noun. / That + noun.)
	② " (These + noun. / Those + noun.)
	③ Requesting others. (Noun + please.)
	④ Expressing like/dislike. (Very good)
	⑤ Accepting/Declining an offer or invitation. (Yes, please. / No, thank you.)

January			February			March		
27th week	28th	29th	30th	31st	32nd	33rd	34th	35th

3rd Term

Combination
of two or
three words

7. Asking. (How much?)/Reporting.	8. Instructing or directing others to do something. (VP=Verb phrases)
① Quantity(all/half/no + noun)	① Motion(go to, come to) / Direction(turn)
② " (a lot of/little + noun)	② Visibility(look at) / Audibility(listen to)
③ Prices(yen, dollar, cent, money, pay)	③ Cleaness(wash, clean) * <i>Amenities</i> (bath, etc.)
④ Number(about)	④ Direction(bring, carry) * <i>Household-articles</i>
	⑤ " (take, put) * <i>Services</i> (water, etc.)

* To attract attention. (Excuse me.)

Units composed of language functions.

Units composed of specific notions.

Fonts are used as Gothic=Language functions
Normal=General notions
Italic= Specific notions

* Marked materials are taught through the terms or the units.

April			May			June			July		
1st week	2nd	3rd	4th	5th	6th	7th	8th	9th	10th	11th	12th

1st Term Phrases

1. @ Identifying.
① Reading the alphabet. (Reading capital letters.)
② " (" ")
③ Name (Writing one's own name in capital letters.)
④ " (" ")
⑤ Address (Writing "KYOTO" and "JAPAN".)
⑥ " (" ")

2. Places (bridge, corner, crossing, square, direction, north, south, east, west, street, path, way, road, lose one's way, etc.)
① Relative position (at + NP, in + NP)
② " (on + NP, in + the north/south/west/east)
③ " (behind + NP, in front of + NP, between + NP)
④ Direction (from + NP, to + NP)
⑤ Distance (near + NP, far from + NP)
⑥ Asking. (How far?) / Length (kilometer, meter)

September													October					November					December			
13th week	14th	15th	16th	17th	18th	19th	20th	21st	22nd	23rd	24th	25th	26th													

2nd Term Phrases

3. @ Identifying.
① Reading the alphabet. (Reading small letters.)
② " (" ")
③ Sex (Writing "man/woman" in small letters.)
④ Age (Writing "age, birthday" in small letters)
⑤ Name (Writing "Mr./Ms. ".)

4. Expressing pleasure, liking, displeasure, dislike.
① Degree (very ...)
② " (too ...)
③ " (much ...)
④ " (a little ...)
* Personal comfort (tired, hungry, etc.)
* Cleanliness (clean, dirty)

5. Public transport (travel by air/car/bus/train, airport, slow, fast, arrive, leave, departure, etc.)
① Asking. (How? / Tell me.)
② Instructing others to do something.
③ Expressing intention.
(Vinf=Infinitive without to)
④ Expressing want. (Vto=Infinitive with to)
⑤ Point of time (for + ... hour / minute / moment)

January			February			March		
27th week	28th	29th	30th	31st	32nd	33rd	34th	35th

3rd Term Phrases

6. Asking. (Why?) / Reporting.
① Benefactive (for + NP)
② " (" ")
③ Purpose (to + Vinf...)
④ " (" ")
* Subjects (study, choose, etc.)

7. Asking. (What + noun?) / Reporting.
① Clothes (What color? / What size?)
② Cinema (What number? seat, front, back, center)
③ Point of time (What day of the week?)
④ Press (What book? newspaper, magazine, etc.)
⑤ Character (What sort of man/woman?)

Units composed of language functions.

Units composed of specific notions.

Fonts are used as Gothic = Language functions
Normal = General notions
Italic = Specific notions

* Marked materials are taught through the terms or the units.

@ Warning others. (Be careful! / Look out.)

@ Marked units are on reading or writing letters

April				May				June				July	
1st week	2nd	3rd		4th	5th	6th	7th	8th	9th	10th	11th	12th	

1st Term

Sentences

1. Identifying. (I am ...)	2. Identifying. (noun + is... / nouns + are...)	3. Identifying. (This/That is ...)
① <i>Name/ Origin</i> (from Japan)	① <i>Region</i> (farm, lake, hill, forest, beach, island)	① Fullness (full, empty)
② <i>Sex / Age</i> (... years old)	② " (land, valley, field, top, high, deep, etc.)	② Equality (the same, different)
③ <i>Schooling</i> (student, grade)	③ Existence (There is ... / There's no ...)	③ Ownership (mine, yours)
	④ <i>Countries and places</i> (city, town, village, etc.)	④ Importance (important)
	⑤ <i>Services</i> (on/off) / Accessibility (open/closed)	/ Utility (useful)

* Writing the alphabet. (@capital letters) * Inquiring about approval. (Is this all right?)

September				October				November				December	
13th week	14th	15th	16th	17th	18th	19th	20th	21st	22nd	23rd	24th	25th	26th

2nd Term

Sentences

4. Reporting. / Correcting. (I have... / I don't have...)
① <i>Ailments</i> (pain, fever, cold)
② <i>Recreation</i> (club, party, excursion)
③ <i>Correctness</i> (question) / <i>Repairs</i> (trouble)
④ <i>Daily routines</i> (lunch, dinner, etc.)

* Writing the alphabet. (@small letters)

5. Expressing pleasure, liking, displeasure, dislike. (I like ... / I don't like ...)
① <i>Food and drink</i> (pepper, mustard, sweet, etc.)
② <i>Sports</i> (names of one's own favorite sports)
③ <i>Art</i> (names of one's own favorite art-form)
④ <i>Music</i> (singer, musician, song, etc.)
⑤ <i>Pets</i> (the learner's won pets, etc.)

* Inquiring whether something is considered possible or impossible. (Is it possible?)

6. <i>Weather conditions</i> (warm, cool, sun, moon, star, snow, rain, wind, storm, freeze, temperature, etc.)
① ~ ③ Reporting. ① (It's ...)
② (We have ...) ③ (It will be ...)
④ Expressing indifference. (It doesn't matter. / I don't care.)
⑤ Point of time. (this morning/afternoon, etc.)

January				February				March			
27th week	28th	29th	30th	31st	32nd	33rd	34th	35th			

3rd Term

Sentences

7. Stating whether someone knows or does not know something or someone. (I know ... / I don't know ...)
① <i>Telephone number</i> (telephone, etc.)
② <i>Politics</i> (president, minister, etc.)
③ <i>TV</i> (television, music, news, etc.)
④ <i>Movies</i> (movie, actor, actress, etc.)

* Inquiring about how certain or uncertain others of something. (Are you sure?)

8. <i>Foreign language</i> (understand, read, well, simple, word, call, explain, mean, translate, dictionary)
① Asking. (What do you call this?)
② Asking. (What do you mean?)
③ Correcting. (That's not clear to me.)
④ ⑤ Inquiring about intention. (I beg your pardon? / Will you speak slowly, please?)

Units composed of language functions.

Units composed of specific notions.

Fonts are used as Gothic = Language functions

Normal = General notions

Italic = Specific notions

* Marked materials are taught through the terms or the units.

@ Marked units are on reading or writing letters

April				May				June				July	
1st week	2nd	3rd	4th	5th	6th	7th	8th	9th	10th	11th	12th		

1st Term

Sentences

1. Inquiring about pleasure, liking, displeasure, dislike. (Do you like...?)
- ① *Daily routines* (go for a walk, etc.)
- ② *Radio, TV* (radio, CD, tape, etc.)
- ③ *Climate* (dry, rainy, cloudy, etc.)
- ④ *Region* (mountains, near the sea, etc.)

2. Requesting others to do something. (Can I have...?)
- ① *Eating out* (bill, menu, table, etc.)
- ② *Food and drink* (dessert, tea, etc.)
- ③ *Movies* (ticket, program, etc.)
- ④ Equality, inequality (another, other)

3. @ *Nationality* (Korea, Korean, China, Chinese, Russia, Russian, America, etc.)
- ① Inquiring whether someone knows or does not know something or someone. (Do you know?)
- ② Asking. (Tell me about + NP.)
- ③ Identifying. (He/She is ...)
- ④ Asking. (Do you have...?)

* @ Reading names of countries neighboring Japan.

September				October				November				December	
13th week	14th	15th	16th	17th	18th	19th	20th	21st	22nd	23rd	24th	25th	26th

2nd Term

Sentences

4. @ Identifying.
- ① Signing one's name. (sign, signature)
- ② Marking, checking. (check, mark, etc.)
- ③ Writing date. (April 24 1997, etc.)
- ④ Writing address. (city, state, etc.)

5. Expressing or inquiring about want, desire. (Do you want...? / I want...)
- ① *Intended occupation* (job, shop, etc.)
- ② *Examinations* (pass, fail, etc.)
- ③ *Private transport* (car, gas, etc.)
- ④ *Marital status* (wife, husband, etc.)

6. *Countries and places* (Asia, America, Africa, Europe, Australia, world, etc.)
- ① ② Expressing or inquiring how certain or uncertain. (I think + that-clause. / Do you think + that-clause?)
- ③ Expressing interest. (I'm (not) interested in...)
- ④ Expressing a logical conclusion. (NP + must + VP.)
- ⑤ Expressing one is obliged to do something. (I have to...)
- ⑥ Expressing hope. (I hope that-clause.)

* @ Reading signs. (Exit, Caution, Free, etc.)

January				February				March			
27th week	28th	29th	30th	31st	32nd	33rd	34th	35th			

3rd Term

Sentences

7. *Weights and measurements*
- (lb., oz., mile, yard, foot, inch, etc.)

- ① Requesting others. (Would you please...?)
- ② Inquiring about possibility. (Is it possible + that-clause?)
- ③ Inquiring whether one is obliged to do something. (Do I have to...?)
- ④ Denying (negative sentences with not)
- ⑤ Expressing satisfaction. (This is (not) what I want.)

8. Expressing want, desire. (I'd like to... / May I have...?)
- ① *Holidays* (tourist, visit, etc.)
- ② *Public transport* (change, wait, etc.)
- ③ *Entering and leaving a country* (immigration (passport, foreign, etc.))
- ④ *Hotel* (hotel, guest, bill, key, etc.)

Units composed of language functions.

Units composed of specific notions.

Fonts are used as Gothic = Language functions
Normal = General notions
Italic = Specific notions

* Marked materials are taught through the terms or the units.

@ Marked units are on reading or writing letters

